

優秀賞

東京都立府中けやきの森学園

「けやきの森学園スポーツ フェスティバル2019」

学校紹介

本校は肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の併置校で、それぞれ小・中・高等部までの児童・生徒が在籍している。ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会会場の東京スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザが近くにあり、オリンピック・パラリンピック教育として様々な種目の選手と交流、学習する機会を設けている。

取組概要等

【取組概要】

パラスポーツである陸上競技(車いす走、ビーンバック投げ、徒競走)、ボッチャ、ボウリング、カローリング、卓球バレー、フライングディスク、ハンドサッカーの7競技にそれぞれの実態に応じて取り組んだ。児童・生徒が競技を通して交流できるよう、環境設定や時間配分を行った。

【取組のねらい】

様々な種目に親しむことで、パラリンピック競技を知り、体験することができたり、活動を通して障がい者スポーツや国際理解教育、日本の伝統・文化等に興味を示すことができるようにした。また、保護者や参観者も参加することで、共生社会についてやパラスポーツを知るきっかけになればと考えた。

【創意工夫した点】

開会式では、大会旗の掲揚を行い、全校児童・生徒が応援旗を作成し、フェスティバルを盛り上げた。

【取組結果や効果】

普段経験できない競技を知り、見学、体験することで、自分が競技者になれたり、順位を競ったり、評価されたりすることで、誰かとスポーツをする楽しさや難しさを知ることができた。

【来年度以降の展開予定など】

来年度以降も、「スポーツに親しむ」を目標とし、競技や児童・生徒の参加方法を検討する。

プログラムの様子



開会式は、生徒会が主体となり、進行を務めた。選手宣誓や大会旗掲揚などで、皆の期待感が一気に高まるのを感じた。



卓球バレーなどスポーツの体験コーナーでは、知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、両部門の児童・生徒がチームを組み、交流を深めながら楽しむことができた。



ボッチャでは、簡易ルールを設けることで、本校の児童・生徒だけでなく、保護者や兄弟、卒業生や地域の方なども参加し、チームでの交流や競い合いを楽しめた。



全校児童・生徒の作成した大会旗は、フェスティバルのムードを盛り上げてくれた。

日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会からのコメント

パラリンピック競技の体験だけでなく、種目を通じて、障がい者スポーツや国際理解、文化学習を合わせて行うなど、創意工夫がなされている点が良かったと感じました。保護者、参加者の方々とも一体となった取組になっていると思います。

受賞のコメント

小さいころからスポーツに親しむことで、卒業後の余暇につながり、QOL*の向上が期待できると考えます。また、どんなに障がい重い子でも、スポーツを楽しめるよう、応援もプログラムに組み込み、全員が参加できるよう配慮しました。

* QOL : クオリティ・オブ・ライフ